

施設シート

施設名	もりやまエコパーク交流拠点施設	所管課	環境生活部ごみ減量推進課
-----	-----------------	-----	--------------

1 指定管理者の概要

名称	TAC・ナショナルメンテナンス共同事業体	代表者	正村 宏人
所在地	守山市環境学習都市宣言記念公園1番地1		

2 施設の設置目的

地域の新たな魅力づくりに貢献する施設にするとともに、多くの市民が集い、憩うことで、市民に愛される施設として、「環境」「健康」「交流」をはぐくむ活動拠点とする。また、多くの市民が来訪し、高齢者の生きがいをづくりや健康増進はもとより、子ども達の健全な育成を図り、新たな交流が生まれる施設を目指す

3 施設の概要

建設年度	事業費	敷地面積	延床面積	駐車場	施設の部屋・設備等
R2年度	千円	17,700㎡	3,781㎡	97台	1階 ●環境学習ゾーン 環境学習室(定員63名)、工作室(定員54名)、交流・学習ゾーン、キッチンスペース ●健康増進ゾーン 温水プール(25m 8レーン)、キッズプール(38㎡)、採暖室、トレーニングエリア ●交流促進ゾーン 多目的ホール、温浴施設(定員20名)、畳コーナー、多目的スペース ●その他 市執務室、リユースステーション、管理事務所、駐車場等
改修年度	事業費	改修内容			
H 年度	千円				

4 指定管理期間

令和3年4月1日～令和8年3月31日(5年間)

※関係書類
あり

5 納付金・指定管理料の状況

(単位:千円)

	R 年度 (導入前年度)	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
指定管理料		57,139	56,701	54,699	56,753			
納付金								

※導入前年度の「指定管理料」は、市の直営経費となります。

6 施設の利用等の状況

	R 年度 (導入前年度)	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
開館日数 (日)		304	318	314	314			
利用者数 (人)		111,857	143,859	162,259	173,745			
前年度数 (人)			111,857	143,859	162,259			
前年度比 (±%)			129%	113%	107%			
利用料金 (千円)		29,530	34,030	39,227	41,216			
前年度利用料金 (千円)			29,530	34,030	39,227			
前年度比 (±%)			115%	115%	105%			

評価シート

施設名: もりやまエコパーク交流拠点施設

○評価については、各所管課が実施する。

○評価は以下の3段階で実施している。

A: 優れている B: 適切に実施されている C: 改善が必要

1 総合評価

評価項目	視点	評価
施設の設置目的を達成できたか。	指定管理者が施設の設置目的をしっかりと理解し、適切な運営を行えたか	A
市の運営管理方針を適切に実施できたか	「2 指定管理者運営の個別項目評価」の総合的な評価	A

2 指定管理者運営の個別項目評価

(1) 管理運営

評価項目	視点	評価方法	評価
(ア) 運営業務	利用時間や休館日の設定状況 ・仕様書に基づいた営業内容か	・業務日誌等等	A
	受付・承認・利用料金の收受と管理および接遇 ・適正な収納事務の実施 ・接遇態度	・関係書類や現地調査 ・施設シート	A
	必要書類が整備、保管されているか ・各種業務計画書の整備、保管 ・業務日誌等の報告書、点検記録の整備、保管 ・修繕・事故・故障の履歴の整備、保管(期間終了時まで)	・書類	A
(イ) 管理運営体制	人員体制・職員の資質向上 ・適正な人員配置 ・有資格者の適正な配置 ・(定期的な)研修の実施 外部委託 ・事前承認、外部委託先の協定遵守	・関係書類 ・職員へのヒアリング等	A
(ウ) 維持管理業務	施設の保守管理 ・法定点検保守の実施 ・清掃業務 ・小規模修繕	・点検名、実施回数等のリストの確認 ・関係書類	A
	備品管理 ・適切な備品管理、台帳の整理 ・市の備品と指定管理者の備品の区分け ・システムの更新の適切な実施	・現地調査で台帳と照合等	A
(エ) 保安・衛生対策	保安・警備業務 ・職員巡回等の適切な実施 ・機械警備の正常な稼働 ・避難経路の確保 ・マスターキー等の適切な管理 衛生 ・衛生面に配慮、事故防止策 ・食中毒防止のための措置	・現地調査 ・職員へのヒアリング	A
(オ) 危機管理対策	・緊急時(災害等)の対応ができる体制の整備 ・マニュアルの整備 ・緊急時の対応、市への報告	・関係書類 ・マニュアルの確認	A
(カ) 情報管理	個人情報保護 ・マニュアルの有無、罰則等の周知 ・収集の制限 ・資料等の返還・複写、複製の禁止 ・事故発生時における報告 情報公開 ・適切な情報公開	・関係書類 ・マニュアルの確認	A
(キ) 報告業務	連絡体制 ・意思疎通 事業報告書や収支計画書等の提出状況 ・適切な時期、内容での提出	・関係書類等	A

(2) サービスの内容

評価項目	視点	評価方法	評価
(ア) 利用促進	PR活動の推進 ・市の広報やマスメディアの活用 ・ターゲットを絞ったPR	・関係書類等	A
(イ) サービス向上	利用者アンケートの活用 ・アンケートの積極的な実施 ・利用者の声の施設運営への反映 ・適切な苦情対応と記録 ・地域住民との交流	・関係書類等	A
	事業の実施状況 ・事業計画に基づく事業の実施 ・提案事項の実施計画への反映と確実な実施 ・地域性を活かしたイベントの実施	・事業報告書等	A
(ウ) 達成目標の達成状況	あらかじめ設定した数値目標の達成度 ・自主事業の積極的な実施(新規事業の開拓) ・数値目標の達成	・事業報告書等	B

(3) 収支状況

評価項目	視点	評価方法	評価
(ア) 経理処理状況	・指定管理者の経理の分離 ・適正な内部監査体制	・会計帳簿と金融機関口座の照合 ・監査結果等	A
(イ) 利用料収入 経費縮減の取組状況	・収入増加に向けた取組 ・売上に対する収納率 ・光熱水費の削減	・事業計画書 ・事業報告書 ・職員へのヒアリング等	A

3 評価理由および改善が必要な点

運営4年が経過し、施設利用者や会員が増加してきたことから、常に賑わいのある施設となり、来館者数も当初の想定(年間7万5千人)を上回り年間約17万人となった(昨年より1万人増加)。温浴施設は湯量の問題から入場制限をしており、利用者数は限界に近づいているが、年間、のべ約2万人が温浴施設のみを利用され、温浴施設を含むセットでの利用も約2万人となっている。プール教室では、のべ17,500人が利用されるなか、特に園児や小学生の利用が多く、当初から目指している「高齢者の生きがいづくりや健康づくり」、「子どもたちの健全な育成を図り、新たな交流が生まれる施設」となっている。今後においては、常に事業の成果、課題を整理し、計画の見直しを図るなか、施設の運営に取り組んでもらいたい。
引き続き、市への連絡・報告、連携の強化に努めてもらいたい。